

いつもお世話になり有難うございます。「お彼岸」のイメージが強い「春分の日」ですが、実は古くから伝わる「自然に感謝して春の訪れを祝福する日」だそうです。また、国民の祝日に関する法律では「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」あるいは「自然をたたえ、将来のために努力する日」と定められています。由来や背景を知ると見識が深まるものですね。

痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



知っとこ! 「税務のマメ知識」

【輸出をした場合の消費税はどうか?】

消費税の課税対象になる取引は、「国内において事業者が事業として対価を得て行う資産の譲渡等と外国貨物の輸入」となります。

つまり、事業者が日本国内で商品の販売やサービスを提供する場合には、原則として消費税がかかることとなります。では、国外と取引をする場合はどうなるのでしょうか。例えば、商品などを国外に販売する輸出取引の場合には、その輸出にかかる消費税は免除されます。これは「内国消費税である消費税は外国で消費されるものには課税しない」という考えに基づくものです。私たちの身近なところでは免税店があります。海外に行く際に免税店でお土産などを買う場合には、いくつかの条件を満たせば消費税が免除されます。事業者の場合は、商品の輸出や国際輸送、国際電話などがあります。例えば、自動車メーカーが国内に



において自動車を販売する場合には消費税が課税されますが、輸出をする場合は免税となります。このように輸出取引は消費税が免除されますが、これに使用する部品の仕入れなどには消費税が含まれていることとなります。

そのため輸出の場合には、これらの経費に含まれる消費税および地方消費税の額は、申告の際に仕入税額の控除をすることができます。なお輸出免税の適用を受けるためには、輸出許可書などの必要書類を保管しておく必要があります。

副所長

たなべしげお

田邊繁雄の ~税務の豆知識

「生産性向上設備投資促進税制」って?

今回は、安倍政権下の税制優遇措置をご紹介します。ご承知のとおり、「アベノミクス」の第三の矢は「日本再興戦略 (H25.6.14閣議決定)」にその多くの施策が盛り込まれています。

これら施策を確実に実行し、日本経済を再生の上、産業競争力を強化する目的で『産業競争力強化法』が成立し、平成26年1月20日に施行されています。この法律に税制(法)をマッチングさせ、経済産業省が主導する形で『生産性向上設備投資促進税制』が措置されています。

この税制は『産業競争力強化法』に定められた ①先端設備の取得もしくは ②生産ラインやオペレーション改善に資する設備を同法施行日からH28.3.31までに取得して税制(法)の要件を満たした場合に、取得した減価償却資産の即時償却もしくは税額控除を選択して適用できるという優遇措置です(優遇度は低くなりますが、H29.3.31までの取得にも税制措置があります)。

②の適用に当たっては、取得前に経済産業局の「事前確認」を受ける必要があるため、各地で、この制度に関する説明会(経済産業局主催)が盛んに行われており、当局の担当者は前例のない優遇制度であることを盛んにアナウンスしています。設備投資をお考え(予定)の方は、是非ご相談ください!

社員のひとこと日記



早いもので、もう3月になりました。だんだんと春らしく暖かい気候になってきてうれしいですね。3月は日本では年度替りの時期となり、月を通して卒業式や送別会が行われ、出会いと別れの時期です。

「どんな用件でも、午前4時に呼び出せるのが親友です」と、ある外国の女優さんが言ったそうです。これをラジオで聞いて、ふと自分は誰かを呼び出せるだろうか・・・と考えてしまいました。社会人になると、みんないろんな自分の道を歩き、すぐには呼び出せないところにいる人も多いですが、もし何かあったときには来てくれるかな～と想像していました。

毎日を当たり前で過ごしていますが、周りにいてくれる人たちを大切にできる人になりたいと改めて感じました。この時期、これから新しい場所で頑張る人たちも多いと思いますが、新しい出会いに期待して頑張ってほしいです！そして私も仕事も含めて新しい人との出会いを楽しみにこの時期を過ごしていきたいです。



竹長 操

365日 が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【拙を守る】

桜より一足早い春告花の「木瓜（ぼけ）」は、昔から俳句の題材として親しまれてきました。文豪の夏目漱石も大の木瓜ファンだったと聞きます。小説『草枕』では、「木瓜は面白い花である。枝は頑固で、かつて曲った事がない。そんなら真直かと云ふと、決して真直でもない。（中略）そこへ、紅だか白だか要領を得ぬ花が安閑と咲く。柔らかい葉さへちらちらつける。評して見ると木瓜は花のうちで愚かにして悟ったものであらう」と主人公に語らせています。

木瓜の花言葉には「先駆者」や「指導者」のほかに「平凡」があります。

梅によく似た花姿を個性がないと見た人がいたのかもしれませんが、漱石はその様子を「拙（せつ）」と表現し、「木瓜咲くや 漱石拙（せつ）を守るべく」という句を詠みました。「稚拙（ちせつ）」や「拙劣（せつれつ）」の言葉からも分かります。拙とは下手なこと、つたないことを意味しており、「拙を守る」とは



漱石が生き方の基本として好んだ言葉だそうです。不器用で世渡り下手を自覚していた漱石ですが、器用で如才ない生き方に憧れていたわけではありません。むしろその逆で闇雲に利を追求するくらいなら、要領は悪くてもあえて拙を曲げない愚直な生き方を貫きたいという思いを込めて先の一句を詠んだのでしょう。



何かと巧みさが注目を集める世の中ですが、下手で不器用だから成功しないと考えるのはいかがなものでしょうか。自らの不器用さを自覚している人は不器用を克服するために懸命に努力します。片や、もともと器用な人はさほど苦労しなくても上手くいくため、得てしてあくせくしないものです。

努力なくして成長もないとするならば、成功の決め手は「器用」「不器用」ではないように感じます。むしろ器用であるゆえに努力を忘れ、そこで成長が止まってしまう恐れもあります。足りないところを補う努力を忘れずに、不器用ながらも高い志を持ち、拙を守って自分らしく商売を続けていけたらどんなに素晴らしいことでしょうか。